

平成28年度 第3回岡山市特別職報酬等審議会 会議録（概要）

日 時：平成28年10月20日（木）10:30～11:23

場 所：岡山市議会 議会棟 3階第1会議室

出席者：委 員 泉会長、古市会長職務代理者、小松原委員、高木委員、鶴身委員、
永見委員、西谷委員、山本委員、吉本委員

岡山市 渡辺人材育成・労務担当局長、眞茅議会事務局長、中村統括審議
監、福田給与課長 他

○開会

○資料の説明

○審議

【委員からの主な意見】

- ・議員としての役割を十分に果たすためには、ある程度の額は必要ではないか。
- ・支出の透明性を高めていくという条件をつけたり、第三者委員会の設置をするという条件をつけた上で、額に見合った政策なり、今までにできなかったことを取り入れ、活躍することを期待するなら、引き上げも必要ではないか。
- ・都市規模とか人口規模、財政規模等を勘案していけば、積算根拠がない中ではあるが、20万円前後かなというのが感想。
- ・平成20年以降に、他の政令市で政務活動費が改定されているのは値下げ方向。増額はそれ以前のものしかない。
- ・他都市と比べて額が低いというだけでは納得がいかない。値上げについては非常に慎重でなくてはならない。値上げの理由をきちっと市民に説明ができなければ、値上げはしないほうがいい。お金が足りないのはなぜかという理由がなければ、値上げをする説明ができない。
- ・積算の根拠がないということが重要なポイント。どれだけ足りないかが分かって、初めてどれだけ上げないといけないかが分かる。
- ・他都市と比較をして、それが少ないからとか多いからとかというのは、全く関係ない。どれだけ支払われたかというよりも、どれだけが効果があったかを市民は知りたい。根拠がはっきりしたならば、額が少々上がることは、やぶさかではない。
- ・平均値の数理学上の問題とか、幾つかの課題があって、単純に平均値を参考にしたがり、平均値を決定打に額を変更するわけにはいかないという印象。
- ・平均値からのアプローチは一応参考資料になるが、それが本当の市民目線に耐えられる根拠ではなさそう。
- ・定量的なアプローチができないかが1つポイントだが、結論とすると定量的にアプローチは実証できないということになりそうだ。
- ・政務活動費にふさわしい仕事、役割を定量化しないとイケないが、定量化にはなじまない。

- ・ 政務活動費について岡山市は会派への支給だけだが、議員一人ひとりに支給ができるような形が必要ではないか。
- ・ 岡山市は住民監査請求が数々出されており、市民から見た透明性が確保されていないというところが問題だ。
- ・ 領収証のホームページへの公表は、必要なものとして求めるべきではないか。
- ・ 政務活動費を後払いにすることも一つの方法ではないか。
- ・ なぜ値上げが必要なのかという根拠はいただいていない。まず、透明度を高めることを努力して、その上で上げるということが妥当ではないか。
- ・ 何を計画して、何をして、こうなったという報告は欲しい。
- ・ 物価の状況も、参考の資料にはしながら政務活動費を検討すべき。
- ・ 額を上げるのもやぶさかではないが、上げるのであればそれ相応の説明がして欲しい。他都市と比べて低いからという理由では、なかなか市民が納得できない。

【答申の方向性】

- ・ 政務活動費の金額を変更する決定的な理由がない。
- ・ 透明性の確保については審議会として出た意見を補足として書く。

○閉会